

事後評価書

箇所名	丈六谷川		事業名	砂防事業	課名	防災砂防課																										
事業概要	工期 (下段当初)	平成12年度～平成21年度	全体事業費 (下段当初)	630百万円 (負担区分: 国 1/2、県 1/2)																												
		平成12年度～平成16年度		500百万円 (負担区分: 国 1/2、県 1/2)																												
事業目的及び内容		<p>①場所 三重県三重郡菰野町 千草 地内</p> <p>②事業目的 丈本事業は、丈六谷川において砂防堰堤を設置して土石流による災害を未然に防ぐことを目的とした。</p> <p>③被害想定 崩壊地や溪床からの土砂生産による土石流氾濫被害を想定した。</p> <p>④保全対象 人家2戸、山小屋、養魚場、県道朝明溪谷線 400m、橋梁1橋</p> <p>⑤事業内容、事業量 堰堤工: 3基 (鋼製透過型)、既設床固工修復工: 3基</p>																														
1・事業の効果		<p>① 対策後の流域の状況 事業期間中の平成20年9月に時間雨量126mmの豪雨においては、土石流が発生したが、新設した堰堤が土石流を捕捉し、効果を発揮したため、土石流による保全対象への被害はなかった。 事業完了後の平成23年9月の台風12号時に最大日雨量310mm、総雨量334.5mm、平成26年10月の台風19号時に最大日雨量348mm、総雨量352mm、等の降雨があったが、土石流による保全対象への被害はなかった。</p> <p>②費用対効果</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>当初</th> <th>今回評価時</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">費用</td> <td>建設費</td> <td rowspan="3">分析は行って いません。</td> <td>9.54億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td>0円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>9.54億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効果</td> <td>総便益</td> <td></td> <td>12.67億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用便益分析結果(B/C)</td> <td></td> <td>1.33</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>③ ②以外のその他の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■山地森林被害抑止効果 溪流空間を保全する効果が見込まれる。 ■交通途絶による機会損失の防止 (県道朝明溪谷線) 県道朝明溪谷線の安全性が確保され、交通途絶による朝明溪谷線沿線施設へ行く機会損失が防止される。 ■波及的効果 人家の安全性が向上し、生活する地域住民の不安感が軽減される。 					区分		当初	今回評価時	備考	費用	建設費	分析は行って いません。	9.54億円		維持管理費	0円		合計	9.54億円		効果	総便益		12.67億円		費用便益分析結果(B/C)			1.33	
区分		当初	今回評価時	備考																												
費用	建設費	分析は行って いません。	9.54億円																													
	維持管理費		0円																													
	合計		9.54億円																													
効果	総便益		12.67億円																													
費用便益分析結果(B/C)			1.33																													
2・事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化		<p>工事箇所の希少種の移植を行うことで植生環境へ配慮した。</p>																														

3・事業を巡る社会経済情勢等の変化

朝明川上流域には朝明溪谷、朝明キャンプ場があり、日帰りも宿泊も可能な人気のレジャー施設となっている。近年のアウトドア志向の高まりにより、鈴鹿国定公園に位置し豊かな自然を持つこの地域の人気、価値はますます高まっている。丈六谷川で発生する土石流により県道朝明溪谷線が途絶すると、長期間に渡って上流のレジャー施設が利用できなくなるおそれがある。

このことから、計画策定時と比べ、当地区での土石流対策の重要性が高くなっている。

4・県民の意見

①県民の意見の収集方法

対象者：菰野町千草地区の住民（朝明川流域周辺の千草、奥郷地区の住民）

調査方法：アンケート方式 調査数：229件 有効回答数：227件（回収率：99%）

②アンケートの目的

アンケートは、砂防事業の認知度、事業を実施したことによる安心感などを調査し、今後の土砂災害対策に県民の意見を反映することを目的とした。

③アンケート結果

a) 土石流対策の認知度

- ・ 73%が家の近くに土石流危険渓流があることを知らないと回答しており、77%が丈六谷川が土石流危険渓流であることを知らなかったと回答している。
- ・ 76%が丈六谷川で土石流対策工事を行っていたことを知らなかったと回答している。
- ・ 94%が住んでいる地区の避難場所を知っていると回答している。

b) 土石流対策を実施したことによる安心感

- ・ 60%が砂防堰堤の工事により安心して暮らせるようになったと回答しており、14%があまりそうは思わない、思わないと回答している。
- ・ あまりそうは思わない、思わないと回答した理由のうち46%が工事の効果が分かり難いからと回答している。

c) 今後の土砂災害対策について

- ・ 45%が土砂崩れなどの災害に対して不安を感じると回答している。
- ・ 85%が土砂崩れなどの災害を防ぐ工事を今後も望むと回答している。
- ・ 67%がハード対策とソフト対策を並行して進めるべきであると回答している。

5・再評価の経緯

再評価は実施していない。

6・今後の課題等

住民アンケートの結果、土砂災害に不安を感じる住民が半数程度いるなど、土砂災害に関する関心は高いものの、土石流危険渓流の認知度や県の実施している土石流対策の認知度は高くないことがわかった。

土石流対策工事を実施したことにより安心感が向上したとの回答がある一方、そう思わない回答もあり、工事の効果が分かり難いことを理由に挙げている。

このように、県が実施している土砂災害対策に対する情報提供や工事实施による事業効果については、住民への周知度がまだ低いことがわかった。

今後は、危険箇所や避難場所がわからないとの意見があることから、ソフト対策として、市町の防災対策部局と連携し、住民自らが危険箇所の把握や避難態勢の準備など日頃から取り組めるように支援していくことも重要であると考えられる。また、事業着手前に事業効果の説明方法について工夫をしていく必要があると考えられる。

事業内容・位置図

